

官学連携によるインターンシップによる地方創生の試み(1) -埼玉県秩父郡皆野町を事例に-

○坂倉剛(早稲田大学大学院人間科学研究科)・横山滉人(早稲田大学人間科学部)
中島直輝(埼玉県庁・早稲田大学人間総合研究センター)
黒澤栄則(皆野町役場・早稲田大学人間総合研究センター)
扇原淳(早稲田大学人間科学学術院)・浅田匡(早稲田大学人間科学学術院)

Keyword : 官学連携, インターンシップ, 地方創生

【背景】

大学等における【インターンシップ】は、学修と社会での経験を結びつけることで、学生の大学等における学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組であるため、より一層の推進が必要とされている¹。

一方、地方自治体は、人口減少、若年層の転出や産業振興などの諸課題を抱えていることから、特に10代や20代など若い世代による、異なる視点から地域振興を模索している。一部の自治体では、【官学連携】によって定期的に大学生と地域の交流によって、地域振興を目指していることもある。

そのなかで、埼玉県北部に位置する皆野町と早稲田大学人間科学学術院では、2019年に包括連携協定、【インターンシップ】に関する覚書を締結し、2020年3月に第1回となるによる皆野町地方創生インターンシップ事業を行った。皆野町に滞在しながら皆野町役場で就業体験を通して、職業意識の向上や町政に関する理解を深めることを目的として実施された²。

本稿では、本事業の内容を紹介し、今後の課題について検討する。

【皆野町について】



図1 皆野町³

皆野町は、埼玉県秩父地方にある人口9,792人(2019年

1月)の町である。周囲を山で囲まれ、温泉が湧出し、町の中心を荒川が流れるなど、自然豊かな地域である。そのため、豊かな自然を活用した観光業が主要産業である。また、精密機械製造業も盛んである。

皆野町は、人口減少と少子高齢化(高齢率36.4%・2019年1月)、20代や30代の就労先が町内より秩父市の方が多いことから産業振興が目下の課題となっている⁴。また、周辺自治体に比べ、観光客数が少ないため、観光振興も課題である。

このような課題の改善に向けて、2018年4月から皆野町に、みらい創造課が新設された。同課では、町の重要政策の企画・実施、移住・定住促進事業、地域おこし協力隊の活用などの町内の活性化に取り組んでいる⁵。現在では、第2期皆野町まち・ひと・しごと創生総合戦略を2020年3月に策定し、以下の4点を基本目標として皆野町が抱える諸課題の解決に向けて取り組んでいる⁶。

1. 皆野暮らしを実現できるまち(定住・移住の促進)
2. 理想の子ども数をかなえるまち(出産・子育て支援)
3. みんなが活躍するまち(経済の活性化)
4. 人がつながるまち(関係人口の創出)

【インターンシップ内容】

1. 日程

2020年3月4日～3月18日(計11日間)

2. 主な実習内容

(1) 新聞記事の切り抜き

皆野町を含む秩父地域、埼玉県や国の地域振興に関する記事を収集

(2) 広報紙編集会議への参加

「広報みなの」の構成・記事の検討

(3) 地域振興に関する立案

広報紙の活用、町プロモーション、お試し居住用住宅「来てみ～な」の利用促進など

(4) ホームページの記事作成

記事掲載の提案書の作成、記事の作成

(5) 学校訪問

埼玉県立皆野高校, 皆野町立皆野中学校

(6) 議会傍聴

皆野町議会第1回定例会, 予算審議, 埼玉県議会予算特別委員会

(7) 課題研究

【インターンシップ】の実習生の研究テーマに沿って, 現在抱えている皆野町の課題整理とそれに対する提案の検討, 提案発表

(8) 見学

庁舎内・町内の見学

集落のみを巡回する運行経路となっているため, 不便であるとみられる。



図3 町営バスのルート¹¹

【学生提案】

1: 埼玉県立皆野高校の活性化

埼玉県立皆野高校は1966(昭和41)年に開校した秩父東高校皆野分校が1968(昭和43)年に分離し独立し, 現在に至る⁷。ただし, 皆野町立皆野中学校から進学する生徒は少ない。また, 近年では定員割れが続いている⁸。

そこで, 皆野高校への入学者の増加による町内の高校を維持することを目指し, 地域の公教育との有機的な連携の具体的な例として, 「英語力の強化」, 「地域連携」, 「高大連携」を提案した。

2: 公共交通の活性化

皆野町内では, 西武バス1路線(皆野駅~三沢~西武秩父駅), 町営バス2路線(日野沢線・金沢線)が運行されている。

日野沢線は, 役場入口を出発すると, 皆野駅, 長生荘(県立皆野高校至近), 秩父温泉前(日帰り温泉施設「満願の湯」)や秩父華厳前(観光地「秩父華厳の滝」)を経由し, 終点の西立沢に行く。皆野駅から西立沢までの約14キロを, 片道40分程度で結んでいる⁹。ハイキングコースの登山口を経由していることから, 週末には観光客の利用もある。年間利用者数は16,120人(2018年度)である。

金沢線は, 皆野駅を出発すると, 長生荘, いろは橋折り返し場(本庄市)を経由し, 浦山までの約12キロを片道40分程度で結んでいる¹⁰。年間利用者数は4,989人(2018年度)である。

町営バスの定期利用者は, 小中学生98人, 皆野高校生75人, 通勤4人, 合わせて177人(いずれも2018年度)となっている。

町営バスについては, 本数に加えて, 商業施設, 病院, 町内の中心部を経由していないために, 生活上の利用には難しいことが想定される。加えて, 町営バスは, 限られた



図4 西武バスのルート¹²(Tの路線)

現状を踏まえ, 公共交通の維持・活性化のために, 以下の6つを提案した。

(1) 「自家用有償旅客運送」

町営バスは町内の全ての地域, 集落を経由していないため, それらの地域での交通手段を確保する方法として, 自家用車を用いて有償運送によるサービスを始めることが望ましいと考えられる。町では免許を持たない70歳以上を対象に「おでかけタクシー制度」を実施し, 運賃の半額程度を補助している¹³。しかし, 町中心部から遠い地域ほど利用者負担が大きくなる点に課題が残る。飯能市では, タクシー事業者の事業の妨げをしないように, 中心市街地方面への片道利用に限って自家用有償旅客運送を認めている例がある¹⁴。

(2) 「一部時間帯の他団体空き車両による運行・増便」

病院や葬儀場などの送迎バス、日中のデイサービスの車両を利用してない時間帯に運行してもらうことで、移動手段に充てる事例が出てきている。また、公立学校や自動車学校のスクールバスへの混乗を始めている事例も出てきていることから、多様な交通の選択肢の一つとなることが望まれる。

(3) 「郵便物の集荷事業の委託」

貨客混載は、利用者の増加には繋がるものではないが、収支状況の改善に役立つものと想定される。引受けの手続きによって、所要時間の延長が想定されるが、町営バスは目立った混雑がない路線であることを鑑みて、影響は小さいものと考えられる。

(4) 「町営バスのフリー乗降区間の設定」

日野らによると、フリー乗降区間の設定は、坂道の多い団地における高齢者のバス停までの移動負担の軽減に有効であり、結果的にバス利用とそれに伴う外出機会の増加にもつながる可能性を指摘している¹⁵。

ただし定時性や安全面などを考慮する必要がある。団地ではないものの、坂道の多い山中を走る路線であるため、町営バスへの本サービス導入は利便性の向上に役立つものと考えられる。

(5) 「鉄道—バスの接続改善」

町営バス—鉄道間の乗り継ぎをする際に、駅で20分以上待つなどの接続が悪いことがあるため、町民にとって利便性が高いとは言い難い。そのため、乗り継ぎ時間が10分程度になることが、より利便性を向上させるために求められる。

しかし、観光客らに、駅前の商店や喫茶店、食堂などで買い物や食事などをしてもらうためには、乗り継ぎ時間に余裕があることが望まれるだろう。

谷島らは、利用者意向を正確に把握し、その属性を考慮した上でダイヤを改定することにより、利用者の評価が向上することが確認されたとしている¹⁶。

(6) 「運行ルートの変更」

いずれの町営バス路線も、役場や高校、郵便局は経由するが、スーパーマーケットや病院などには経由していない。このため、日常生活上の利用に向かない路線となっている。駅前の商店街は次々と閉店し、国道140号線沿いにスーパーマーケットやファミリーレストランなどが立ち並ぶ。しかし、それらを町営バスが経由していないことは町民にとって不便である。

以上の6つの提案をしたが、締めくくりとして次の旨を

発言した。すなわち、町営バスを含む公共交通の利便性の向上は、生活上の移動手段が便利になるだけである。肝心なことは、町内に外出先があることである。例えば、気軽に利用できる温浴施設や全世代対応型の体操教室などである。このような、町民が日常的に利用できる施設が町内には求められているのではないだろうか。それらの整備を同時に進めることで町営バスの利用や公共交通を整備する意義があろう。

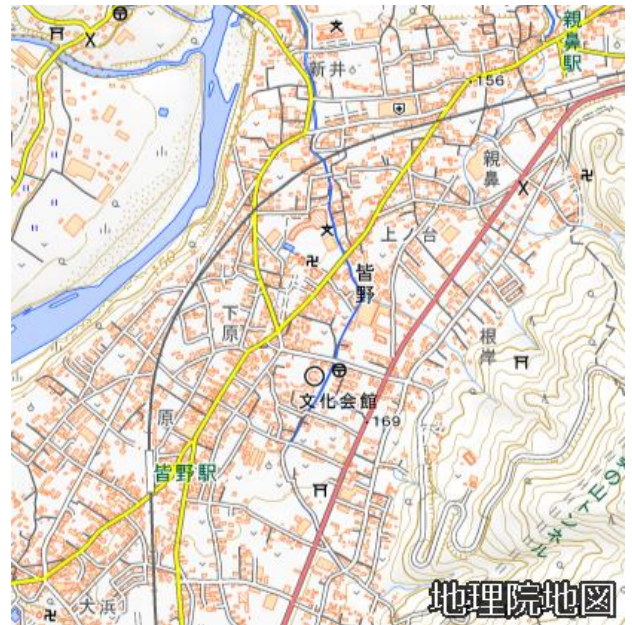


図5 皆野町中心部¹⁷ (地理院地図加工)

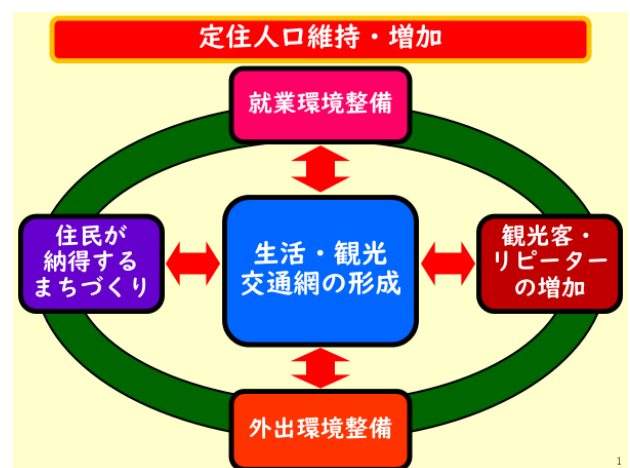


図6 地域内交通環境整備関連図

また、就業地の整備、観光客の更なる呼び込みなど多面的な観点からのまちづくりが皆野町には要請される。いずれかの一部のみに重点を置くのではなく、バランスよい計画・実行が人口維持につながっていくと考えられる。

【今後の課題】

学生は、今回の【インターンシップ】を通して、自治体職員の業務を体験し、また、議会政治と政策決定過程について学習した。人間社会の課題そのものを発見し、科学的手法によってその課題の改善のために役立つ研究とは何かについて考えるきっかけとなった。

今後は、こうした学びの経験を大学のカリキュラムの中にどのように位置づけ、専門科目やキャリア教育、研究との有機的な連携と出口保証の観点からの検討が必要だ。

また、自治体は【インターンシップ】が学生と自治体双方にとって有意義なものとなるよう、プログラムの内容をより魅力的なものとし、より深い学びを提供できる場とする必要がある。

今回【インターンシップ】を実施した皆野町は、他の地方と同様に人口減少に苦しんでおり、人口減少対策を中心とする【地方創生】の取組が不可欠である。

【インターンシップ】を契機として町と絆を持つ学生を多く養成し、彼らの活躍によって町の活性化がもたらされることが【インターンシップ】を契機とした【地方創生】のゴールである。

その方法は以下のものが考えられる

(1) 学生の発案を基に町が施策を展開していくこと

学生が町を題材に様々な側面を掘り下げたフィールドワークを行い、課題解決に向けた施策を提案する。

(2) 町と絆を持つ学生の定期的な訪問

【インターンシップ】終了後に、当時関わりを持った場所(地域)を定期的に訪問してもらうことで、地域の活性化につなげる。

(3) 町役場・町内企業への就職

町に関心を持った学生が就職することで、やる気と熱意のある職員を採用することができる。役場と現場のどちらにも携わる地域おこし協力隊として赴任することにも期待したい。

これらの展開を適切に実施し、ゴールへとつなげていくことが自治体の役割である。

皆野町みらい創造課は、本【インターンシップ】によって、皆野町職員、特に若手職員にも、非常に意義のあるものとなった、としている。また、本事業の結果、有意義な提案が創出されたこともあり、今後も取り組みを続けていくことが必要であると感じている。

今後、【インターンシップ】の規模の拡充、内容の充実を図りながら、町と大学だけではなく、地元高校、更には

県をも交えたより大きなコンソーシアムへと実施主体を育てながら、【地方創生】を推進していく。

【引用・参考文献】

- ¹ 文部科学省. インターンシップ好事例集. https://www.mext.go.jp/content/1355719_001_1.pdf. 2020年7月30日閲覧.
- ² 早稲田大学所沢総合事務センター. 人間科学部・人間科学研究科 正規生対象 令和元年度 皆野町インターンシップ募集要綱. http://www.waseda.jp/tokorozawa/kg/doc/career/191227_minano_internship.pdf. 2019. 2020年7月30日閲覧.
- ³ 白地図ぬりぬり. https://n.freemap.jp/tw/20200730_0311886384. 2020年7月30日閲覧.
- ⁴ 皆野町. 第2期皆野町人口ビジョン第2期皆野町まち・ひと・しごと創生総合戦略. 2020.
- ⁵ 皆野町. 広報みなの. No. 633. 2018.
- ⁶ 前傾4に同じ.
- ⁷ 埼玉県立皆野高等学校. 概要・沿革・歴代校長. <https://minano-h.spec.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/124.2>. 2020年7月30日閲覧.
- ⁸ 埼玉県教育委員会. 令和2年度埼玉県公立高等学校における学力検査受検状況. <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/documents/020302r2zyukenzyokyoteisei.pdf>. 2020年7月30日閲覧.
- ⁹ 皆野町. 皆野町営バス時刻表. 金沢線. <https://www.town.minano.saitama.jp/wp-content/uploads/2020/03/7397aebbc5ac2be0beac5f2a82a35d36.pdf>. 2020年7月30日閲覧.
- ¹⁰ 皆野町営バス時刻表. 金沢線. <https://www.town.minano.saitama.jp/wp-content/uploads/2020/03/139d71bc2c260116a19cdf0331afa09-1.pdf>. 2020年7月30日閲覧.
- ¹¹ 皆野町. 皆野町ホームページ. 町営バス路線図. <https://www.town.minano.saitama.jp/wp-content/uploads/2020/03/f311cec7748765e221b6f4b703605d35.jpg>. 2020年7月30日閲覧.
- ¹² 西武バス. 西武観光バス秩父営業所バス路線案内図. <https://www.seibubus.co.jp/docs/rosen/rosenzu/chichibu.pdf>. 2020年4月1日現在. 2020年7月29日閲覧.
- ¹³ 皆野町. 広報みなの. No. 645. 2019.
- ¹⁴ 毎日新聞. 奥武蔵らくらく交通自家用車運送で「足」確保 飯能市の吾野・東吾野地区、交通サービス始動 / 埼玉. 2018年12月12日地方版/埼玉. 23面.
- ¹⁵ 日野泰雄, 向井一雄, 水上和也, 森田隼一. 賑わいまちづくりに向けた高齢者支援のための新たなバスサービスの試みとその評価. 交通工学論集. 第1巻第2号特集号B. pp. B_18-25. 2015.
- ¹⁶ 谷島賢, 坂本邦宏, 船戸諒子, 鈴木健一, 久保田尚. 郊外地域における路線バスと鉄道の接続時間に関する研究. 土木計画学研究・講演集. 2008.
- ¹⁷ 国土地理院. 地理院地図. 2020.